泗水小だより

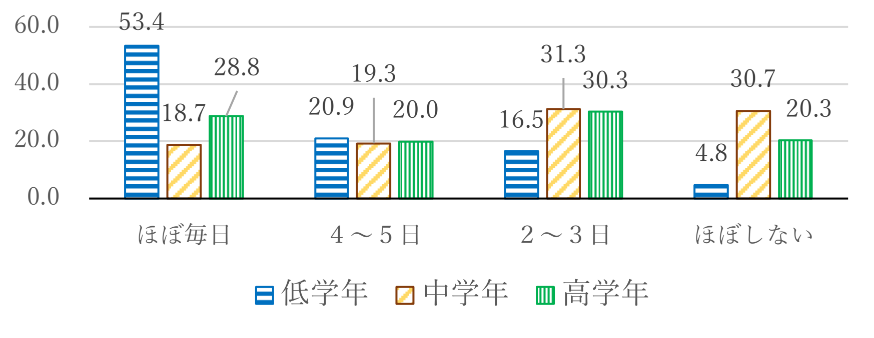
学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」

泗水小学校
学校だより No38
文責 芹川博文
２月 16 日（金）

家で勉強「ほぼしない」低学年 0.5 割、中学年３割、高学年２割

～ 県学力調査アンケート（i-check シート）の結果から No,2～

お家（学校以外）で１週間に何日くらい勉強しますか。



左のグラフをずいぶん眺めました。宿題はどの学年も出ているはずなのに、この結果になるのはなぜだろうと。何人かの職員や児童とも話題にしました。そして一つの「仮説」にたどりつきました。

◇低学年：家族の声掛けや学童での支援もあり、勉強の習慣がつきやすい。

◇中学年：自分の力でやろうとするが、なかなか勉強する習慣がつきにくい。

◇高学年：自覚が出てきて、自分の力で勉強し始める児童も増えてくる。（二極化も）

全学年とも実際のところの理由は分かりませんが、家庭学習に課題があるという実態が明らかになりました。その分の時間の使い方が気になるところです。

平日の帰宅後の時間は意外と短く、その時間をどう習慣づけていくかは、大きな違いになってきます。自立（自律）に向けて、小さな目標でも自分で決めて、生活を整えていく力がつくよう願います。

土（土台）づくりの大切さ

～ 何事も「こやし」になる経験 ～

「成功は必ずしも約束されていないが、
成長は必ず約束されている」

アルベルト・ザッケローニ（元サッカー日本代表監督）

先週末の三連休、庭の畑で過ごす時間を持ちました。決して広くはありませんが、それでも長靴で畑に入ると見えてくるものがたくさんあります。伸びてきた草と格闘し耕しながら次に植えるものを考えました。今回は、大根、ホウレンソウ、カブ、レタスあたりはいい感じでした。うまくいった理由は、おそらく土づくり。実家からたい肥を分けてもらい、石灰と化成肥料を混ぜてみました。いかに「土台」が大切かを実感しました。

ただ、にんじんは相変わらずうまくいかず、葉ばかり茂って実は小指ほどの物ばかり。学校のウサギたちに全部献上しました。美味しそうに食べる姿に思いがけない幸せもいただきました。

気付けば２月もあと１０日あまり。４月からの１年を味わいながら次のステップを思い描く時です。子どもたちにとっても「うまくいかなかったこと」「思い通りにならなかったこと」もあったことでしょう。しかし、そんな経験こそ、「宝」になる日が来ると考えます。

子どもの頃、祖父が口癖のように言っていた言葉を思い出します。「若い時の苦労は、買ってでもしろ」。これからの時代を生きていく子どもたちにとって、様々な経験が「土台」や「こやし」となり、豊かな実を結ぶことを期待します。

想いをつないでいく

～能登半島地震募金お世話になりました～

ボランティア委員会による募金活動により、３４，９１４円が集まりました。子どもたちのお小遣いやお年玉が主かと思いますが、保護者の方のご協力もあったかと想像します。本当にありがとうございました。

２月１４日（水）の新聞に、登校を再開した輪島市の子どもたちの弁当を食べる姿が載っていました。熊本地震を経験した私たち。これからも、思いをつないでいきたいと思わされました。

優しい行動が 誰かの笑顔に

～ 制服・体育服 再利用へのご協力を ～

青い体育服が一着入っていました。いつ、どなたが、この「制服回収箱」に入れてくださったのか分かりません。「だれか必要な人に着てもらえるなら」そんな優しい心で入れてくださった方の姿を想像しました。そしていつの日か、誰か必要な子と保護者が、「あっ、ちょうどいい大きさ」と、肩にあて、笑顔になる姿も。

いつも笑顔で来校される主任児童委員のお二人が、「よろしくお願いします」とチラシを持って来られました。

正面玄関の回収箱に、たくさんの「物語」が生まれることを願っています。感謝と共に。